

海外研修報告書 5月

循環農学類

喜多遼太郎

人との繋がりは本当に面白い、そう度々感じることでできる充実した時間を過ごせています。

僕の農場では1回目の牧草収穫が終わりました。ヨーロッパでは牧草収穫は年4-5回が当たり前だそうです。この牧場でもほぼ毎月、年5回収穫を行います。理由としては、牧草がなるべく短い状態で刈り、栄養価の高い状態で収穫するためです。背丈は30~50cmほどで、実家の収穫



収穫



タイヤ乗せ

(年3回)時に比べ、運ばれてくる牧草が深い緑色だと感じました。

多くの日本の酪農家は年3回収穫しか収穫をしないという話をしたら、“なんでそんな質の下がった牧草を牛に食べさせているのか”と言われてしまいました。しかし、ここで日本とデンマークの大きな違いは、多くのデンマークの農家は個人で機械、トラクターをあまり所持せず、外部の業者に種まきから収穫までを委託するため、収穫作業が農家の大きな負担にならず、年5回収穫が可能なのだと感じました。



実家が掲載された新聞

先月、僕を取り上げていただいた新聞に、実家も取り上げていただきました。それらの新聞を読んでいただいた“colo Quick”という子牛の飼育に関する農業製品を販売するデンマークの会社から連絡をいただき、社長をはじめ、色々な方々とお話をする機会をいただきました。この会社は世界 40 ヶ国以上に製品を輸出し、今、日本への輸出を始めようとしています。日本進出の手伝いを頼まれ、微力ではありますが、手伝いをする事になりました。この会社の初乳管理をする製品は、デンマークで 30%以上の酪農家が使用しており、同類の製品を世界に輸出している会社は世界で唯一だそうです。“first meal-big deal”を一つの合言葉とし、世界から信頼を得る会社と呼んでいただいた事、またこれからも関係を続けることができるという事に感謝します。



Colo-Quickの方と



哺乳時



初乳を冷凍保存、授乳させる製品

社長の話、牧場主、他の酪農家との関わりにより、デンマークの酪農家は育成、特に子牛管理にすごく慎重で丁寧な仕事をすると共に、お金をかけています。日本でも今後、こういう意識がより高くなっていくと確信しました。また、colo Quick のようなデンマークでは当たり前技術でも、日本では最新の技術になっている現状に、ここで学ぶことの自分への有意義さをより感じさせてくれます。

牧場主と少しずつではありますが、より深い話ができるようになってきています。任せてもらえる仕事も先月に比べいくつも増え、成長を感じられる日々を過ごせていることを嬉しく思います。残り9カ月となった研修、右肩上がりに行きます！